

徳島県那賀郡相生町方言の立ち上げ詞

岸江 信介

I. はじめに

1. 調査対象地： 旧相生町（現那賀町）は阿南市の西部 15km に位置する山間の農村地域である。主な産業は農業の米作りのほか、林業も行っている。過疎化が進む中、町村合併により、那賀川流域の町村であった、驚敷町・相生町・上那賀町・木沢村・木頭村の丹生谷（にゅうだに）5 町村は、地理的・歴史的、また産業・文化面においても古くからの結びつきがあり、平成 17 年 3 月 1 日、5 町村が合併して「那賀町」となった。したがって相生町は旧の町名である。阿南市へは自家用車での通勤圏である。
2. 調査年月日：平成 17 年 12 月 3 日
3. 話者：前川みかえ（1925 年 3 月 10 日生）
4. 調査者・調査場所：岸江信介・話者自宅
5. 調査方法：統一調査票による質問調査
6. その他：①アクセント表記はカギ式を用いることにし、上昇位置を「、下降位置を」で示し、文アクセントの記述を行った。
②必ずしも統一質問文の通りでなくても、回答された文例はなるべく多くを掲げることにした。話者のコメント、調査者の気づきは<>内に記した。

II. 調査結果

I. 自己の自発的な行動を立ち上げるために、自己に向かって発信する「立ち上げ詞」

(1) どっこいしょ。一休みしよう。

○ヤレ 「ド」 ッコイショ。アー 「クタビ」 レタ。「イップク ショー。ああ。どっこいしょ。一服しよう。<ヤレは弱く、ドッコイショが目立つ発話だが、立ち上げ詞として機能しているとみられる>

(2) どうれ。出かけることにしよう。

○ドーレ サ」ー 「デカル カ。「ド」 レドレ コ」 トコト 「ヤル」 カ。どうれ。さあ、でかけるか。どれどれ すこしずつやるか。

(3) よいこらしよ。とうとう山の天辺に着いた。

○「ヨ」 ッコラショ。アー 「クタブ」 レタ 「ノ」 ー。「ヤマノ」 テンコツ「エ ケ ッコー 「キ」 タワ。よっこらしよ。ああ、くたびれた。山の頂上にやっと来たよ。

(4) しまった。もうちょっとで落ちるところだった！

○「シ」 モタ。モー チョットデ 「ドツチェ」 ヨッタ 「ノ」 ー。「ドツチェル ト

コロ」ダッタ ワ。ケン「ギワデ ケッコー トマツト」一。しまった。もうちょっとで落ちるところだったねえ。落ちるところだったよ。ぎりぎりのところで何とか止まっている。＜ドツチェルは「落ちる」の意味＞

(5)くわばらくわばら。恐ろしかった！

○「ク」ワバラ 「ク」ワバラ。アー 「オトロシ」カッタ。くわばら、くわばら。ああ恐ろしかった。＜話者は「クワバラクワバラ」という形式はほとんど用いることはないと説明した＞

(6)しめた！今度の魚は大きいぞ。

○「ヤ」ツタ。ケッコー 「ヤツト」一。コ「ン」ドノ 「サカナワ オッキョ」イゾ。やった。非常にやったあ。今度の魚は大きいぞ。＜当地方言ではケッコーという形式を多用する。「非常に」の意味のほか、「何とか」((4)参照)など幅広い意味を持っている＞

(7)ままよ。飛び越えるしかない。

○「ヨ」ッシャ。「トンデ ミ」ナ 「ショー」ナイ 「ノ」一。よっしゃ。飛んでみないと仕方がないね。

(8)なにくそ！負けてなるものか。

○「オドレ」クソ。「マ」ケテ「タ」マル カ。なにくそ。負けてたまるか。

(9)しめしめ！誰も気がついていない。

○シ「メ」タ ソー。シ「メ」ター。ダ「レ」モ 「キー」 ツイト」ラン。しめたぞ。しめた。誰も気がついていない。

(10)ちえっ。つまらないなあ。

○チェッ。「ケツタクソ ワ」ルイ ノ」一。ちえっ。気分が悪いなあ。

(11)ちくしょう！仕返しをしてやる。

○「チク」ショー。「オドレ」クソ ヤツタル ゴ。ちくしょう。おのれくそ。やったるぞ。

(12)くそっ！覚えている！

○「オンドレ」クソ。「オボエト」レ。おのれくそ。覚えておれ。

(13)おやおや、いったいどうしたの。

○オマ「ハ」ン ドシ「タ」 ン。ナニ 「シ」ヨタ ン。あんた、どうしたの。何したの。＜当地方言ではオマハンをよく用いる。「あんた」という意味で用いる。大阪方言とはアクセントが異なる。大阪ではオマハ「ン。当地方言ではオマ「ハ」ンとなる＞

(14)えへん、えへん。吾輩は村一番の力持ちじゃ。

○「ケ」ッコ 「ヤ」ツタ ヤ」ツタ。「ワシヤ」ヘーチャ「ラ」ジョ。「ワシヤ ム」ラデ イチ」バンノ チカラ「モ」チジョ。すごい やったあ。わしはへいちゃら

だよ。わしは村一番の力持ちじゃ。

(15) はてな、ここはどこだろう？

○アレー ドシ「タ」ン。コ「コ」ツチャ 「イッタイ」ドコー。あれっ、どうしたのだろう。ここって一体どこ。

II. 他者の発話に呼応して、応答の発話を立ち上げる「立ち上げ詞」

(16) はい、承知いたしました。

○「ハ」イ 「ホン」ナラ ナ 「ワカリマシ」タ。「ホ」ナ タシ」カニ。はい、それならね、分かりました。

(17) はい。宜しゅうございます。

○「エ」ー エ。「ワ」カッタ。「ワ」カッタ。「ヨロシ」イデス。ええ、分かった。分かった。よろしいです。〈エーエという形式はこの話者が最も多用する応答詞である。まさに「他者の発話に呼応して、応答の発話を立ち上げる」形式であるといえよう〉

(18) ええ、ここに居ます。

○「エ」ーエ」ー。ココニ 「オ」ル デ「ヨ。ココニ 「オ」ル ゼ。ええ、ここにいるよ。ここにいるぞ。

(19) んだ。私の傘です。

○ンー。ホリヤ 「ワイノ」 カサ」ジャ。「ワタシ」ンジャケンド。うん。それは私の傘だ。私のだけど。

(20) さよう、さよう。あなたの言う通り。

○「ホ」ージャ 「ノ。 「ホ」ージャ ホ」ージャ。オ「マ」ハン 「ユ」ー トー」リジャ ワ。そうだね。そうだ、そうだ。あんたの言う通りだよ。

(21) ほいきた。おやすいご用です。

○「ヨ」ツシヤ。「マカシトキ。「ヨ」ツシヤ。「マカシテオ」ケ。よっしゃ。任して。任してといて。

(22) よっしゃ。やりましょう。

○「ヨ」ツシヤ。「スル」ワ。「マカシトキ。よっしゃ。するよ。任しておいて。

(23) よしきた。お引き受けいたしましょう。

○「ヨ」ツシヤ。「シトク」ワ。「スル」ワ。「ヒキ」ウケタ。よっしゃ。しておくよ。するよ。引き受けた。

(24) がってんだ。一緒に行きましょう。

○「オ」ー オ。イッショニ 「イコ」イコ。はい。一緒に行こう、行こう。
〈「がってんだ」という言い方はしない。「オーオ」はそれに代わる形式で当地では応答詞といえるものである。〉

(25) かつぱのへだ。簡単だ。

○「ホレグ」ライダッタ」ー へーチャ「ラ」ジョ。カンタンジャ。それぐらいたつたら平ちゃらだよ。簡単だ。<「かつぱのへだ」という表現を用いることはない。>

(26) いえいえ、とんでもございません。

○「イ」ヤ イ」ヤ オマハンチャ 「ソナ」ン コ」ト セ」ンデ エー」ヨ。
「キノド」クナ。「ス」マン コ」ト 「シ」タ ナ」ー。いやいや、あなた、そんなこと、しなくていいのに。すみませんねえ。
<「とんでもございません」という言い方はしないと話者は説明した後、話者自らが話し相手から何かをもらったという状況を想定して説明した時に述べたものをここでは掲げた。>

(27) なんの、たいしたことではございません。

○ナ「ン」ジャ 「タ」イシタ コ」ト ナイ」ワ。なんの、たいしたこと、ないよ。<当地方言では「ございません」という形式を日常用いることはない。>

(28) なあに、擦り傷(すりきず)ぐらい、すぐ治るさ。

○ナ「ン」ジャ 「コラー タ」イシタ コ」ト ナ「イ」 ナイ。「ス」グ ナ」オル。なんだ、これは大したことはない、ない。すぐ治る。

(29) なにさ、いつも調子の良いことばかり言って！

○ナ「ン」ジャ コレ。「オドリヤー イッツ」モ 「チョーシノ」 エー コ」ト ヌ」カシテ。オベンチャラ 「ユ」ーテ。なんじゃ これ。おのれはいつも調子のいいことばかりぬかしおって。おべんちゃら言って。

(30) いやはや、とんだ目に遭(あ)いました。

○イ「ヤ」ー エラ」イ メ「ニ」 オー「タ」 ワ。いやあとんだ目にあつたよ。

(31) へん、勝手にしやがれ。

○フン 「カッテニ セ」ー。ふん。勝手にしろ。

(32) なめるんじゃねえよ。こいつ！

○「ヒ」ト 「チョーシ オ」ロシテ ナ「メ」タラ 「アカン」 ソ。「コイツ。「オンドレ」 ナメト」ン カ。人を調子に乗せて舐めたらだめだぞ。こいつ。おまえ、舐めているのか。<「調子に乗せる」ではなくて「調子に降ろして」という表現がある。「なめるんじゃねえよ」という言い方はしないと話者は説明した>

(33) 冗談じゃない。口から出任せを言って！

○「ジョーダ」ンデ ナ「イ」 ワ。ゴ「ジャ」パッカリ ヌ」ーテ。冗談じゃないよ。でたらめばっかし言って。<ゴジャは「嘘」「でたらめ」「いい加減なこと」といった意味で当地方言を含め、阿波方言で多用される形式である>

(34) だまらっしゃい。出鱈目(でたらめ)ばかり言って！

- 「ダマツ」レ。ゴ「ジャ」パツカリ ヌ」カシテ。黙っている。でたらめばっかりぬかして。
- (35)そうは間屋がおろさねえ。黙っていらねえ。
- 「ソ」ーワ 「トイヤガ オロ」サン ワ。ダ「マ」ツテ 「オレル」 カ。そうは間屋がおろさねえ。黙っておられるか。
- (36)うそもへちまもありやしねえ。我慢(がまん)できねえ。
- ゴ「ジャ」モ 「へちま」モ アル 「カ」ー。シ「ン」ボ 「デケン。うそもへちまもあるか。辛抱できない。
- (37)寝言は寝ていえ。このやろう。
- 「ネゴトミ」タイナ コ」ト 「ユ」ーナ。「コノ」 ヤロ」ーガ。寝言のようなことを言うな。このやろうが。
- (38)あたりきしやりきのけつのあな。当たり前だ！
- アタ「リ」マエ 「デ」ー。アタ「リ」マエノ コ」ト 「ユ」ーナ。当たり前だよ。当たり前だ。当たり前のことを言うなよ。
- (39)きみようきてれつだ。それは変だ。
- 「ミョ」ーナ コ」ト ユ」ーナ。妙なこと、言うな。
- (40)ほほう、それは親孝行なお子さんですね。
- ホー。ホラー 「オヤコ」ーコーノ 「コー」ジャ ナ」ー。ほう、それは親孝行な子だね。
- (41)まいったまいった。しかたがない。
- マ「イ」ツタ マイ」ツタ。「ホラ ショ」ーナイ ワ。まいったまいった。それはしかたがない。

Ⅲ.他者との関係を立ち上げるために、他者との言語情報を結節する「立ち上げ詞」

- (42)もしもし、すみません。役場はどこにありますか。
- 「チョ」ツト 「ス」マンナ。オマ「ハ」ン 「ヤ」クバワ 「ドコジエ。ちよつとすみません。あなた、役場はどこなの。<「もしもし」「もし」などの呼びかけことばは普段用いないと説明した>
- (43)のうのう、旅の人。お立ち寄り下さい。
- マー 「チョ」ツト チョ」ツト ナン」ジャケンド ココイ 「キテ。ナニ シテクレル デ。まあ、ちよつとちよつと。ここへ来て。何してくれるか。
- (44)ほら、ご覧なさい。向こうに公園があります。
- 「ホ」ナ チョ」ツト 「ミテクレル カ。「ム」コニ 「コーエン」 アル 「デ」ー。ほらちよつと見てくれる。向こうに公園があるよ。
- (45)やいやい。こんなに朝早くからどこへ行くんだ？

- 「チョ」ツト ホレホレ 「コンナ」 アサ」 ハヨ」ニ 「ドコエ イ」ツキョ
ン。ちょっと、ほれほれ。こんな朝早くからどこへ行くの。
- (46)よう、兄弟。これから何をするつもりだい？
- 「オ」イ 「コレカラ」 ナニ 「スル」 ン「ヨ。おい。これから何するんだよ。
- (47)いざ、さらば。
- ホナ モー 「シマイ」ジャ ノ」ー。「シマワン カ」ー。ホナ サイナラ。じゃあもう、終わりだねえ。片付けようよ。では、さようなら。<「シマワンカ」というのは本来、「終わりにしよう」という意味だったのが転じて分かれる際によく用いられる>
- (48)ささ、ご遠慮無く、召し上がってください。
- サー 「エンリョ セ」ント ヨ」ーケ タベ「テ ヨ。コンナ 「ソ」マツナ モ」ンジャケンド タベ「テ。さあ遠慮しないでたくさん食べてね。こんな粗末な物だけど食べて。
- (49)さて、そろそろ一服しませんか。
- 「ホ」ージャ 「イップクセン」 カ。「ク」タビレタ 「ノ」ー キョ「ー」ラ。そうだ、一服しないか。くたびれたねえ。今日は。
- (50)これこれ、ちょっと静かにしなさい。
- 「コ」リヤコ」リヤ オマ「エ」ラ ナニ 「シ」ヨン ナ。「チョ」ツト シ「ズ」カニ セ」ー。これこれ、お前たち 何しているんだ。ちょっと静かにしろ。
- (51)おい、こら。万引きをしてはいけない。
- コラ 「コンナ コ」ト シ」ター 「アカン」 ゴー。マンビキ 「セラレン」ゾ。こら。こんなことをしたらだめだぞ。万引きはしてはいけない。<セラレンは可能ではなく、禁止を表す形式である>
- (52)おどりゃあ。いい加減にしないか！
- 「オドレ」クソ エー カゲンニ 「セ」ー。おのれくそ いい加減にしろ。
- (53)おのれ、裏切りやがったな。
- 「オドレ」クソ 「ウラギリヤ」ガッタ ナ。おのれくそ 裏切りやがったな。
- (54)どっこい。その手には乗らない。
- 「ヨ」ッコラ ドッコ」イ。「ソノ」 テニヤ 「ノラン」 ゴ。よっこらどっこい。その手には乗らないぞ。
- (55)どうだ、参ったか？
- 「ド」ージャ。マ「イ」ッタ カ。どうだ、参ったか。
- (56)せいの、よいしょ！
- 「セ」ー 「ノ」ー。「ヨ」イシヨ。せいの、よいしょ。
- (57)ようい、どん！

- 「ヨー」イ 「ド」ン。ようい、どん。
- (58)いっせいの、で！
- 「イッセ」ーノー 「デ。いっせいの、で。
- (59)よいしょ、よいしょ、もう一息だ！
- 「ヨ」イショ 「コ」ラッショ モー 「チョ」ツトジャ 「ナ」ー。よいしょ、こらしよ。もうちよつとだねえ。
- (60)うんとこしよ、どっこいしょ。もう少しだ。
- 「ウン」トコ 「ド」ッコイショ 「ド」ッコイ「セー。「モー チョ」ツトジャ。うんとこ、どっこいしょ、どっこいせえ。もうちよつとだ。
- (61)わっしょい、わっしょい、祭りだ、わっしょい。
- 「ワ」ッショイ 「ワ」ッショイ 「マツリ」ジャ 「ワ」ッショイ。わっしょい、わっしょい、祭りだ、わっしょい。
- (62)はじめはぐう、じゃんけん、ぼん！あいこでしよ。
- 「ハジメワ グ」ー 「ジャ」ンケン 「ホ」イ 「アイ」コデ「ショ。はじめはぐう、じゃんけん、ぼん！あいこでしよ。
- (63)きをつけえ、まえへならえ、なおれ。
- 「キオ ツ」ケ。マ「エ」ー 「ナラ」エ。「ナ」オレ。きをつけ。まえへならえ。なおれ。
- (64)きりつ、れい、ちゃくせき。
- 「キリツ 「レー 「チャクセキ。きりつ、れい、ちゃくせき。
- (65)ばんざい、ばんざい。やった、やった！
- 「バンザイ バンザイ。「ヤ」ッタ。「ヤ」ッタ。ばんざい、ばんざい。やった、やった。
- (66)えいえいおう。頑張るぞ。
- 「エ」イ 「エ」イ 「オ」ー。「ガンパロ」ー。えいえいおう。頑張ろう。
- (67)中村君の誕生日を祝して、がんばい。おめでとう。
- 「ナカムラ」クンノ 「タンジョー」ピ ユ」オーテ 「カンパイ。オメデ「ト」ー。中村君の誕生日を祝して、がんばい。おめでとう。
- (68)やっほう、やっほう。
- 「ヤ」ッホー 「ヤ」ッホー。やっほう、やっほう。
- (69)ふれえ、ふれえ、白組。
- フ「レ」ー フ「レ」ー シログ「ミ。ふれえ、ふれえ、白組。
- (70)おにはそと、ふくはうち。
- 「オニワー」 ソト。「フクワー」 ウチ。おにはそと、ふくはうち。
- (71)べらぼうめ、とんでも無い子だ。

- 「トロクソガ。「ゴツ」イ ワ」ルイ ヤ」ツジャ。馬鹿者めが。すごく悪い奴だ。
 (72)それみたことか、わんぱく坊主。
- 「ホ」レ 「ミ」ー。「クソガキ。それ見ろ。わんぱく坊主。
 (73)ざまあ、みろ。いい気味だ。
- 「コ」レ 「ミ」タ カ。ザ「マ」ー 「ミ」ー。エー 「キミ」ジャ 「ナ」ー。
 これ見たか。ざまあ見ろ。いい気味だね。
 (74)ちくしょうめ、ひどいことを言いやがる。
- 「チク」ショー。「ヒ」ドイ コ」ト 「ユ」ー。ちくしょう、ひどいことを言う。
 (75)このやろう。どうしてくれようか。
- 「コノ ガ」キ。ブチ「コロシタ」ロ カ。このがき。ぶち殺したるか。
 (76)たわけ、ふざけた事を言うんじゃない。
- 「ドア」ホ。「タワ」ケタ コ」ト 「ユ」ーナ。どあほ。たわけたことを言うな。
 (77)ばかやろう、いい加減なことを言うな。
- 「トロクソガ。ゴジャ 「ユ」ーナ。馬鹿。いい加減なことを言うな。
 (78)あなかま、静かにしなさい。
- 「ドヤカマシ」ー。シ「ズ」カニ セ」ー。やかましい。静かにしろ。
 (79)しいいっ、静かにして!
- シッ シ「ズ」カニ セ」ー。しっ。静かに
 (80)ちちんぷい、蛙、蛙、生き返れ。
- イ「キ」イキ ポ」ンポ」ン カエ「ル」 カエ「ル」 「コッチ」ー 「イカン
 セ。いきいき ぼんぼん。蛙、蛙 こっちに行きなさいよ。<「生き生きぼんぼ
 ん」の「生き生き」は「生き返れ」「生き返れ」というようなまじないとの説明が
 あった>
- (81)あっかんべい、鬼さん、こちら。
- ア「カ」ン 「ベー 「オ」ニサン 「コチラ。 テノ 「ナル」 ホー」エ。あ
 っかんべい、鬼さん、こちら 手の鳴る方へ。
- (82)あっぱれ、お見事。立派です。
- アッ「パ」レジャ 「ノ」ー。お見事だねえ。
- (83)でかした。でかした。日本一。
- 「ヤ」ッタノ」ー ヤ」ッタ ヤ」ッタ。
- (84)しっけい!すみません。
- ゴメン 「ヨ。 「ス」マン コ」ト シ「タ」 ナ。
- (85)あばよ。達者でな。
- 「サ」イナ」ラー。「キー ツケン カヨ」ー。「ホ」ナ 「ナ。「タッシャデ 「ナ。

Ⅲ. 総括（まとめ）

相生町の方言は、現在同じ町に合併された旧の木頭村の方言とも通じ、徳島方言の中でも伝統的に古い体系を残していると考えられる。当地方言の立ち上げ詞としては、徳島方言として有名な形式であるホナケンドと関連があるホナ、ホンナラ、ホージャなどが目立った。特に言葉を切り出すときに、これらの形式が多用されるというのが当地域方言の特色でもあるといえよう。

また、西日本各地で盛に行われる形式であると思われるが、ヨッシャも多用されている。自他を問わず、立ち上げ詞としてよく機能している形式と言えそうである。

（きしえ しんすけ 徳島大学）